と，低気圧が四国沖にあり，副低気圧がその後，能登半島沖に発生東進した型．現地では長方形の結晶をした雪が降り，約10cm 積った．風が北に変ったとき北側の尾根の鞍部から風が突風となって吹きつけ，不安定積雪層を刺激して雪崩となったのではないかと思う．問題はこんな雪崩の起り易い所にスキー場を作ったことだ．

10. 富士山の雲の分類について

大井　正一，故曲田光夫，故山本三郎（気研）

山本君が選んだ20種類の典型的な富士山の雲の写真と，曲田さんが行った数値実験とを組合せて，それらの場合の館野の高層資料および地上，上層天気図を比べながら，雨の発生機構についての考察を行った．

11. 富士山の笠雲の隆起（こぶ）について

湯山　　生（三宅島側）

富士山の笠雲をいくつか撮影していると，そこに珍らしい形の隆起（こぶ）がみられることがある．しかしこれが地形によって起るものか，気流のうずによって起るものかは分らない．

（文責　奥山）

第18期第2回常任理事会議事録

日　時　昭和49年9月9日（月）14.00～17.00

場　所　気象庁観測部会議室

出席者　礒野，小平，朝倉，大井，奥田，河村，高橋，野本，二宮，丸山，各常任理事
川村，三谷，各理事

報　告

〔庶　務〕

昭和50年秋季大会は関西支部担当とし，予定期日は，昭和50年10月29日～31日，会場は大阪科学技術センター（3会場）を予定している．

大会は，大阪管区気象台研究会および日本気象学会関西支部50年度年会とを共催したい．

〔集　誌〕

No. 4から編集，校正を外注に切り替えた．

〔長期計画〕

委員会を開き今後具体的にどのようなものを取上げて行くかについて検討した．

いろいろな意見が発表されたが，主なものは次のとおり．

(1) 大気物理研究所は別に考える．
(2) 基礎研究
(3) 新制大学における気象学，地学のカリキュラム
(4) 土木，建築工学等境界領域についての検討
(5) 気象学発展の長期展望

議　題

1．学会奨励金受領候補について

次の3件を適当と認め，全理事にその可否について投票を依頼する．

予報へのレーダー利用について．
矢野兼三（福岡管区気象台）

季節風による長野県の大雪について．
内山文夫（長野地方気象台）

北陸に集中豪雨をもたらす帯状エコー．
槇間道夫（新潟地方気象台）

2．「第12回理工学における同位元素研究発気会」の共同主催について

共同主催を承認する．

3．委員会委員の委嘱について

次の候補者を適当と認め，全理事に審査をお願いする．

荒川正一（気象大学校）　田中豊顕（気象研究所）
椎野純一（気象研究所）　高橋忠司（埼玉大学）
島貫　陸（東帝学芸大学）　村山信彦（気象研究所）
関根正幸（気象庁測候課）

4．理事よりの要望事項について

各担当理事が検討し次回までに原案を作成する．

(1) 学会運営の長期計画の作成
(2) 事務局を研究所へ移転
} 庶務理事

(3) 予稿集の廃止
(4) 大会開催をなるべく大学が責任を持つこと
} 講演企画理事

(5) 会計への布石
(6) 各分野の予算使用状況監査
} 会計理事

5．外国会員の会費請求額について

次回に審議する

6．「気象学用語集」の刊行について

(1) 今回のものは，50年3月刊行に間に合うよう進める．

(2) それまでに間に合う意見があれば入れる．

(3) 問題のある用語については「天気」「研究ノート」等に紙上討論により全会員の意見を求め将来の改訂に備える．新語についても常に監視を続けて行く．

(4) 他の用語集と同様に5年後位には改訂版を出す．

(5) 今回の原案をコピーして，旧帝大，名大，気象庁技術部門に配付する．

7．科学研究費補助金審査委員候補者について

第1段審査委員候補者　浅井冨雄（東大海洋研）
田中正之（東北大）
第2段審査委員候補者　沢田竜吉（九州大学）

を推薦する．

8．気象百年史の委託販売について

気象庁から要望された販売を引受ける方向で細部について気象庁と打合せる．

9．各種委員会委員候補者審査に関する各理事の質問，意見に対する処理については各関係担当理事がそれぞれ処理する．

承認事項：玉城善伸ほか8名の入会を承認